

埼玉県マスコット「コバト」

令和7年度

埼玉農業大賞表彰式

とき：令和7年11月15日（土）

ところ：熊谷スポーツ文化公園

Saitama Agricultural Awards

熊谷市のねぎ



彩の国
埼玉県

目 次

埼玉農業大賞について	1
選考経過報告	2
埼玉農業大賞受賞者	3
埼玉農業大賞 経営体部門 受賞者紹介	4
株式会社和銅農園	6
株式会社榎本フルーツファーム	7
埼玉農業大賞 地域貢献部門 受賞者紹介	8
入間市手揉狭山茶保存会	10
田沼 唯利	11
埼玉農業大賞 革新的農業技術部門 受賞者紹介	12
株式会社イモテック	14
朝日アグリア株式会社	15
株式会社Field Works	16



このたび、令和7年度埼玉農業大賞を受賞された皆様に心からお祝いを申し上げます。

埼玉農業大賞は、優れた農業経営や地域への多大な貢献及び革新的な農業技術の実用化に取り組まれ、埼玉農業の振興に貢献された方々の功績を称えるとともに、その先進的な事例を広く発信し、埼玉農業を更に発展させていくことを目指しています。

受賞された皆様は、これから埼玉農業のモデルとなる素晴らしい取組をされています。

皆様の農業に対する並々ならぬ熱意とたゆまぬ努力に対し、深く敬意を表するとともに、その優れた技術力や経営能力及び地域でのリーダーシップを存分に發揮し、今後の埼玉農業の発展に格別のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

さて、本県は温暖な気候や肥沃な土壌、豊かな水に恵まれています。また、大消費地である首都圏の中央に位置し道路網や鉄道網が充実した交通の要衝であり、多数の食品関連産業が立地しています。

こうした強みを生かし、本県では産出額が全国第7位の花き、茶、第8位の野菜をはじめ、米、麦、果実、畜産など多彩な農畜産物が生産されています。

一方、農業を取り巻く環境には、生産者の減少や燃油・資材価格の高騰、気候変動による農作物への影響や災害の深刻化など様々な課題もあります。

こうした中、今回の受賞者の取組にあるように、年間を通した収益の確保、高度な技術の後継者への継承、作業負担軽減や効率化につながるスマート農業機器の開発、地域内の資源を活用した持続可能な農業に貢献する取組など、社会環境の変化に柔軟に対応する新たなチャレンジが各地域で始まっています。

県としても、こうした環境変化に的確に対応するため、将来の埼玉農業を支える新規就農者や経営力に優れた担い手を育成するとともに、県産農産物の需要拡大や先端技術を活用したアグリテックを推進し、埼玉農業の持続的な発展を目指してまいります。

結びに、本日受賞された皆様の今後ますますの御活躍を祈念いたしますとともに、本事業に御協力いただいた皆様に心からお礼を申し上げます。

令和7年11月15日

埼玉県知事 大野元裕

埼玉農業大賞について

(1) 趣 旨

埼玉農業大賞は、環境の変化に対応して本県農業の模範となる優れた農業経営を実践する方、地域農業の振興や社会の活力向上に優れた功績を上げている方、テクノロジーを活用して本県農業に変革をもたらす革新的な農業のモデルを作っている方に、知事の表彰状を贈り、その成果を称え広く紹介することによって、本県農業の持続的な発展に資するものです。

(2) 表 彰

賞の対象は、県内で意欲的に農業を営む個人・法人又は団体、県内で革新的な農業のモデルを作る企業等とし、埼玉農業大賞に、経営体部門、地域貢献部門、革新的農業技術部門を設けています。

表彰は、各部門で、最も優秀な者それぞれ1点を大賞とし、また、大賞に次ぐ優秀な者それぞれ原則1点を優秀賞として賞します。

(3) 主 催

埼玉県

(4) 後 援

埼玉県農業協同組合中央会、埼玉県信用農業協同組合連合会、
全国農業協同組合連合会埼玉県本部、
全国共済農業協同組合連合会埼玉県本部、
埼玉県農業共済組合、一般社団法人埼玉県農業会議、
公益社団法人埼玉県農林公社、一般社団法人埼玉県畜産会、
一般社団法人埼玉県商工会議所連合会、埼玉県商工会連合会、
公益財団法人埼玉県産業振興公社

(5) 特別協賛

J A グループさいたま

選考経過報告

(1) 募 集

令和7年5月1日（木）から令和7年7月4日（金）までの間、埼玉農業大賞の募集を実施した結果、自薦・他選により経営体部門4点、地域貢献部門6点、革新的農業技術部門4点の応募がありました。

(2) 選 考

埼玉農業大賞表彰要綱第5条第2項の規定に基づき、埼玉農業大賞選考委員会を組織し、次のとおり選考委員会を開催しました。

ア 埼玉農業大賞選考委員会幹事会の開催

令和7年8月20日（水）、埼玉農業大賞選考委員会幹事会を開催し、予備選考を実施しました。

イ 埼玉農業大賞選考委員会の開催

令和7年9月4日（木）、埼玉農業大賞選考委員会を開催し、各部門で大賞及び優秀賞の選考を実施しました。

埼玉農業大賞選考委員会

役 職	氏 名	備 考
委員長	篠 崎 豊	学識経験者
副委員長	西田 秀生	埼玉県農業協同組合中央会 常務理事
委 員	江口 幸治	埼玉大学大学院人文社会科学研究科 准教授
委 員	近藤 美恵子	中小企業診断士
委 員	木村 哲也	(株)日本政策金融公庫さいたま支店 農林水産事業統轄
委 員	平山 由美	関東農政局生産部環境・技術課 課長補佐
委 員	小杉 恵美子	関東経済産業局地域経済部産業技術革新課経済社会政策室長

(3) 選考結果

応募されました事例はいずれも優れた農業経営や革新的な農業技術の活用に取り組まれ、また、埼玉農業の振興や地域活性化に優れた活動を行うものであり、選考は難航しました。

選考の結果、経営体部門の大賞として1法人、優秀賞として1法人、地域貢献部門の大賞として1団体、優秀賞として1個人、革新的農業技術部門の大賞として1法人、優秀賞として2法人を令和7年度埼玉農業大賞受賞者といたしました。



埼玉農業大賞受賞者

(1) 経営体部門

敬称略

区分	受賞者名
大賞	かぶしきがいしゃ わどうのうえん 株式会社 和銅農園（秩父市）
優秀賞	かぶしきがいしゃ えのもと 株式会社 榎本フルーツファーム（白岡市）

(2) 地域貢献部門

敬称略

区分	受賞者名
大賞	いるまし てもみさやまちやほぞんかい 入間市手揉狭山茶保存会（入間市）
優秀賞	たぬま ただとし 田沼 唯利（熊谷市）

(3) 革新的農業技術部門

敬称略

区分	受賞者名
大賞	かぶしきがいしゃ 株式会社 イモテック（川越市）
優秀賞	あさひ かぶしきがいしゃ 朝日アグリア株式会社（神川町）
優秀賞	かぶしきがいしゃ フィールド ワークス 株式会社 Field Works（深谷市）

埼玉農業大賞

経営体部門

受賞者紹介



★★★ 経営体部門 大賞 ★★★

かぶしきがいしゃ わどう のうえん

株式会社 和銅農園

1 経営概要

- (1) 所在地 秩父市
(2) 代表者名 代表取締役 田口 直樹
(3) 経営内容 いちご 6,864 m²、いちご育苗 2,364 m²

2 受賞理由

- (1) 統合環境制御技術を導入し、ハウス内の環境をバランスよく制御することで、高品質ないちごの安定的な生産体制を構築している。
- (2) いちご苗の生産技術力が高く、県育成品種の苗生産も行うことで、その普及と生産拡大に貢献している。
- (3) 6次産業化や苗の受託生産に取り組むことで年間を通じて利益が得られる経営を実現し、法人として安定した経営基盤が確立されている。
- (4) 自社人材の育成を通じて、将来の県内いちご生産の担い手確保の取り組みを積極的に行っている。



株式会社和銅農園の皆さん



いちご苗の品質を
確認する田口代表

★★★ 経営体部門 優秀賞 ★★★

かぶしきがいしゃ えのもと

株式会社 榎本フルーツファーム

1 経営概要

- (1) 所在地 白岡市
(2) 代表者名 えのもと たかし
代表取締役 榎本 孝
(3) 経営内容 なし 161a、キウイフルーツ 60a、ぶどう 6a、柑橘類 4a

2 受賞理由

- (1) なしの流通方法を市場出荷から直売主体に転換することを目指し、平成元年に直売所をオープンした。以後、顧客確保に努めた結果、開設3年目から全量直売を実現した。
- (2) なしに加え、ぶどう、キウイフルーツの栽培も開始し、7月下旬の梨から、9月下旬のぶどうまで収穫・販売が可能になったほか、キウイフルーツは追熟期間を調整することで、販売は翌年1月末まで行い、果樹の販売利益が長期に得られる経営体制を確立した。
- (3) 従業員への技術指導にあたっては、1つの作業を複数の工程に分解し、単純化して伝える工夫をしており、結果として経営全体において作業精度と作業効率、双方の高度化が実現できている。



榎本氏御夫妻と従業員



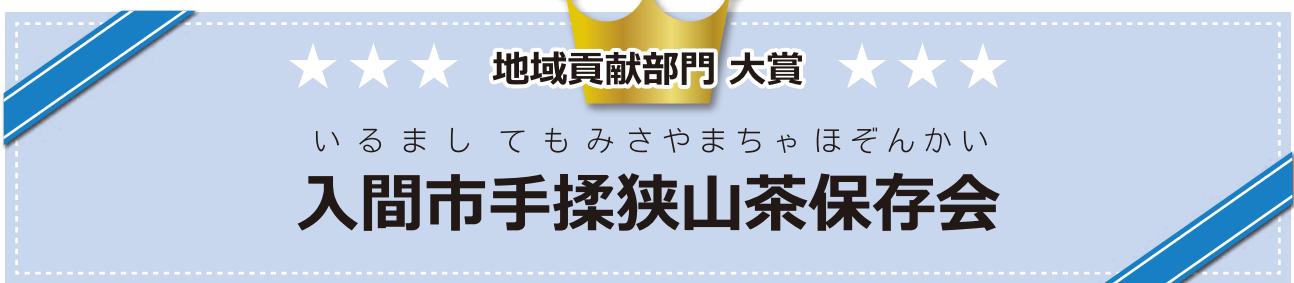
選果作業

埼玉農業大賞

地域貢献部門

受賞者紹介





1 経営概要

- (1) 所在地 入間市
ひらつか なおあき
(2) 代表者名 平塚 尚吾
(3) 構成員 28人

2 受賞理由

- (1) 伝統的な手揉み製法を守り、そこから得られる技能を茶栽培製造技術に活用して、狭山茶の品質向上と後継者の育成、更には伝統文化の継承に取り組んでいる。
- (2) 機械を使いこなして優れた品質の製茶を行うためには、その基礎となる手揉み技術を熟知する必要がある。本会の取組には経験の浅い若手や、新規就農者でも安心して参加できるため、結果として地域の幅広い人材の技術習得向上が図られる仕組を構築している。
- (3) 手揉み技術を後世に継承する活動を通じて、機械製茶によって生産される狭山茶全体の品質も向上させている。



入間市手揉狭山茶保存会の皆さん



親子手揉み茶体験教室の様子

★★★ 地域貢献部門 優秀賞 ★★★

たぬま ただとし

田沼唯利

1 経営概要

- (1) 所在地 熊谷市
(2) 経営内容 ねぎ 1.5ha

2 受賞理由

- (1) ねぎの定植や収穫作業の省力化を実現するため、妻沼地域における機械化一貫体系の確立に尽力し、その技術を多くのねぎ生産者と共有することで、地域全体の技術力向上に多大な貢献を果たした。
- (2) 地域全体で良品質のねぎを周年生産できるよう、緑肥の活用や水田におけるねぎの輪作体系の確立にも努めた結果、その技術は妻沼地区全域のねぎ農家で定着している。
- (3) 田沼氏はその高い栽培管理技術により、平成14年度から平成27年度に、埼玉県地域指導農家に認定された。退任後も、現在に至るまで熱心に後進の指導に当たっている。



田沼 唯利 氏

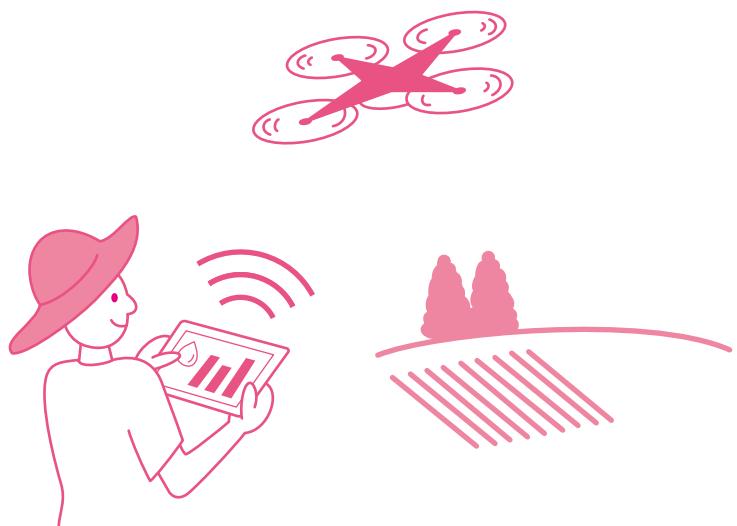


田沼氏（中央）と従業員（左）、研修生（右）

埼玉農業大賞

革新的農業技術部門

受賞者紹介



★★★ 革新的農業技術部門 大賞 ★★★

かぶしきがいしゃ

株式会社 イモテック

1 経営概要

- (1) 所在地 川越市
(2) 代表者名 代表取締役 塩川 武彦
しおかわ たけひこ

2 受賞理由

- (1) 農産物の重さを計り、自動で選別をする小型選別ロボット「ロボせんか」の開発、販売を行っている。
- (2) この機械は小さく軽量であり、場所も取らず、使い方も極めて簡単である。また、農業関係機器としては安価であるため、導入しやすいことも評価されている。
- (3) 県内の農家をはじめ、日本全国に導入実績がある。本技術は重量をもとに選別を行うため、農産物のみならず、水産物や、更には工業製品にも利用可能である。そのため、今後の販路拡大や各方面において多様な活用が期待される。



代表 塩川 武彦 氏



ロボせんか使用風景



ロボせんか

★★★★★ 革新的農業技術部門 優秀賞 ★★★★★

あさひ

かぶしきがいしゃ

朝日アグリア株式会社

1 経営概要

- (1) 所在地 神川町 なかむら のりゆき
(2) 代表者名 代表取締役社長 中村 紀之

2 受賞理由

- (1) 県北地域の関係機関との連携を図り、本庄市内の畜産農家から発生する鶏ふん堆肥を活用して、鶏ふん堆肥 45% 使用した混合堆肥複合肥料『彩の国エコバード 255』を新規開発した。
 - (2) 肥料の形状をペレット状に加工することで、生産者が利用しやすくなったほか、鶏ふん堆肥の活用により他の資材と比較して価格変動幅の小さい肥料の商品化が実現した。
 - (3) 米麦を中心に野菜にも利用が拡大し、令和 6 年度の販売実績は、12 JA で約 300 トンとなっている。混合堆肥複合肥料の使用が拡大することにより、生産者の肥料コスト低減、土づくり効果による地力向上、化学肥料削減による環境負荷低減が期待できる。



埼玉県営業スタッフ



麦肥料として散布試験を実施

★★★ 革新的農業技術部門 優秀賞 ★★★

かぶしきがいしゃ フィールド ワークス

株式会社 Field Works

1 経営概要

- (1) 所在地 深谷市
(2) 代表者名 代表取締役 山岸 開

2 受賞理由

- (1) 開発された農業用ロボットは、従来の機械が入り込めなかつた空間に入り込めるサイズの小型化と、農地において機能を十分に発揮できるパワフルさを兼ね備えている。
- (2) 露地栽培において、特に畝間の除草作業は、膨大な作業時間がかかっており、生産拡大や生産コスト削減を行う上でネックとなっている。本技術を活用することで、これらの課題解決が期待できる。
- (3) 特に近年の猛暑といった過酷な状況の中で農作業する場合に、身体的な負荷軽減が期待できる。
- (4) 現在、深谷ネギの生産者が本技術を評価し、複数台が導入されている。



株式会社 Field Works の皆さん



畝間対応小型草刈ロボット ウネカル

MEMO

やっぱりお米!

勝利のみなもと、埼玉県産米



©URAWA REDS

彩のかがやき コシヒカリ 彩のきずな

JAグループさいたま 埼玉米販売促進対策本部 | JA全農さいたま TEL.048-799-7000



ポスター撮影
メイキング
ムービーは
こちら→

